

シンポジウム

参加費無料／申込不要

核燃料サイクル問題を考える

～私たちは原発，再処理・プルトニウムとどう向き合うのか～

2018年 **4**月**19**日 **木** 午後**5**時**15**分～午後**8**時

弁護士会館**17**階**1701**会議室

(千代田区霞が関1-1-3)
最寄駅：東京メトロ霞ヶ関駅

高速増殖炉「もんじゅ」の廃炉決定，「高速炉」の建設計画，完成予定から20数年以上経過しても，六ヶ所再処理工場（青森県）の操業開始の見通しは立っていません。事業費も当初の見込みの9400億円を大幅に上回る13.9兆円にのぼり，これが国民負担となっていきます。

また，福島第一原子力発電所事故により原発安全神話は崩れ，多くの原発では再稼働の見通しが立たない一方で，老朽原発の廃炉決定が続いています。核燃料サイクルはまさに大きな岐路に立たされています。

このような現状も踏まえ，私たちはどのように核燃料サイクル問題に向き合うべきなのか，専門家の方々とともに考えます。ふるってご参加ください。

プログラム（予定）

1 基調報告

(1) 核燃料サイクルの現状と課題

鈴木 達治郎氏（長崎大学核兵器廃絶研究センター長・教授，
前内閣府原子力委員会委員長代理）

(2) 核燃料サイクル政策の経過と課題

伊原 智人氏（元国家戦略室企画調整官）

2 六ヶ所再処理工場の現状報告

3 パネルディスカッション

4 国会議員からの御挨拶

